

- 山行年月日:平成 30 年 11 月 27 日
- メンバー:大竹幹衛 大竹尚子
- コースタイム:西山集落跡 9:00～宝川上流沢渡渉 9:55～山頂 12:45-13:00～西山集落跡 16:10

今年は春から意識して生まれた西会津町の山を登って来た。それも道のある山はあまり面白くないので、道のない山で西会津町側からのルートにこだわってみた。今回は新潟県境にある土埋山である。私の生まれた新郷漆窪の上の集落小清水から西の県境を眺めると、堂々とした台形の土埋山が見える。小さいころからなんていう山なのか疑問に思っていたが、それが土埋山だったのだ。更に11月上旬、御前ヶ遊窟に行ったとき、北の方角に大きく見えたのもこの山であった。退職した身となつては、平日に山に行けるのが特権である。快晴予報のこの日、ちょうど休みのパートナーと出かけた。

会津盆地は霧が深くいつまでも暗い。つい出発が遅くなってしまう。会津若松から国道 49 号線を新潟方面に向かい、車トンネルをくぐるとすぐに白坂集落へ右折する道がある。鬼光頭川沿いに上流へ向かうと屋敷集落がある。ここは昔、小学校もあったが今は廃校になっている。屋敷への道の途中から右に入るじゃり道があり、これをたどる。しばらくペアピンカーブが続き、標高を上げている。小さな峠を越えてさらに進むと、わ

ずかだが耕作している水田があった。さらに進むと一軒の建物があり、周囲には大根畑が広がっていた。地図には数件の建物記号があるが残っているのは一軒だけである。こんな山奥に平坦がところがあり、そこを拓いて住んでいたなんてすごい。ちょうど朝霧が晴れてくるころであった。

破線の道をたどり、小さな切通の峠を越えて山に分け入っていく。破線の道はやがて小さな沢を渡り、西へ進んでいる。途中、古いキラキラテープに導かれて行くと、また峠になる。木々の間に土埋山が見えるようになる。まだ、けっこうあるぞ。ここから道が少しはっきりして宝川上流へ向かって、かなり下っていく。あたりはブナの紅葉が見事で思わずテンションが上がる。やがて水の音が聞こえてきて沢に出会う。幹衛さんが「ここはきっと大きな沢だから」と言っ

て長靴を担いで来た。靴を履き替えジャボジャボ渡り、大きな木の根元にデポする。「イワナが居そうな」沢だそう。もしかしてさっきのキラキラテープは釣り人がつけたものかなあ。沢からいったん台地に上がり、ヤブの薄いところを進むと炭焼きの窯跡に出会った。どうもこれまでの道型は炭を出すためのものらしい。ここからは上の方に大岩が見え始める。足元には苔むした岩がゴロゴロしている。少し急な斜面を 100mほど登ると緩やかな尾根になる。ヤブも濃くなり、やれやれと言ったところ。この頃に



雪の残る山頂にある一等三角点

なると日差しが強くなり、11月下旬とは言えない高い気温となる。汗をふきふきヤブをこぐ。幹衛さんは、気が進まないらしく、「帰りは山頂から道をたどって新潟側に下ろう」という始末。そこから下に残した車までどうやって戻ると、少しヤブも薄くなり、思ったより

時間がかからず山頂に到着した。数日前に降った雪が残っていた。

山頂は一等三角点の山で北には真っ白な飯豊が望まれ、南には笠倉山、御神楽岳が確認できた。時間も13:00になろうとしているので、ゆっくりもしてられず往路を引き返す。県境には新潟側に道があるらしいのだが、ヤブにおおわれていて幹衛さんもあきらめた様子。下りなのでヤブもあまり気にならない。途中の広い尾根はヤママップで軌跡を確認しながら下った。

無事に沢に戻り、長靴を回収する。よく見ると石がちょうどよく置いてあるので長靴を履かずに渡れた。沢から登り返しの斜面は紅葉が光で明るく輝き、ため息が出るようであった。西山集落跡に戻る頃には16:00を過ぎていた。まるで山仕事から家に帰って来たような気分になった。ここには豊かな生活があったのだ。

